

田野地区タウンミーティング開催報告

日 時	令和2年9月26日（土）19：00～20：30		
場 所	田野公民館1階 会議室		
参加者	<p>【地域側：12人】 田野地区自治会長、高松区自治会長、長野区自治会長、北田野区西自治会長、川根区自治会長、田野地区婦人会会長、田野保育所長、田野小学校長、丹原東中学校長、田野小学校PTA会長、JA周桑田野支所長、消防団田野分団長</p> <p>【行政側：4人】 市長、政策企画課長、公共施設マネジメント推進係長、田野公民館長</p>		
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1.開会 2.自治会田野地区長 挨拶 3.市長挨拶・総合計画のポイントと事業説明…別添資料① 4.テーマに関する現状等説明の後、意見交換：テーマ「公共施設のあり方」…別添資料② 5.まとめ・閉会 		
概 要			
田野地区自治会長挨拶	<p>この会で西条市が抱える課題を地域の皆さんと市が共有し、共に考え話し合うことで、より魅力的で住みやすい愛着の持てるまちづくりに繋がるだろう。</p> <p>この先10年・20年後の田野地区を想って、ざっくばらんなご意見をいただきたい。</p>		
市長事業説明	<ul style="list-style-type: none"> ・西条市は今後30年間で約3万人の人口減少が予測されている。 （約108,000人：2015年実績 → 約78,000人：2045年時点の人口推計値） ・上記3万人の内、多くが15歳～64歳→働く世代がいなくなることで、地域や産業の課題増が予想される。 ・「人口減少・少子高齢化への対応」を最重要課題とした総合計画後期基本計画を策定。2045年時点の人口推計値 約85,000人を目指す！ ・優先目標を3つ設定。A)健康寿命の延伸、B)働きがいの創出・経済活力の維持、C)経営感覚のある行財政運営の実践。 ・市民・事業者の皆さん、行政がともに力を合わせて、将来世代にバトンタッチできる「持続可能な西条市」を実現しよう。 		
テーマに関する現状等	<ul style="list-style-type: none"> ・西条市の公共施設は、同規模自治体の1.6倍(延床面積)あり、その半分以上が老朽化(築30年超)している。 ・公共施設マネジメントとは、施設の安全管理と財源確保を両立するための適正配置を実現することである。 ・人口減少・少子高齢化を踏まえ、今後の行政サービスにおいて、削減余地があるのは公共施設のみである。 ・建物は縮減しても機能やサービスの向上を図る「縮充」の発想で施設のあり方を見直すことが大切である。 ・市民のみなさんと情報を共有し、思いを共感し、新しい公共施設のかたちを考える共創を目指していきたい。 		
参加者の発言要旨		市の発言要旨	
<p><施設の合理化について></p> <p>各施設の利用状況等は我々では分からないが、市でデータを収集・提示し、勇気を持って施設の合理化、縮充を進めていただきたい。</p>		<p>合理化には痛みが伴う。各施設には、想いや歴史が詰まっていることを重く受け止めつつ、各種データによる多面的な評価を基に丁寧に説明していく。</p> <p>将来を担う今の子ども世代に、将来、なぜあの時に手を打たなかったのかと言われぬように、勇気を持って進めていく。</p>	
<p><公共施設の「集約化」「複合化」について></p> <p>学校には地域の拠点としての役割があると考えているので、なんとか廃校は避けたい。</p> <p>例えば、中学校の空き教室に保育所や幼稚園等に入ってもらえると、中学生と幼児が交流できることが魅力的ではないか。</p> <p>また、丹原文化会館の有効活用の方法として、公民館と複合化するなど、1つの施設で2つの役割を持たせてはどうか。</p> <p>建物を減らした後の跡地利用もこれからの課題になると思う。</p>		<p>学校は地域の拠点である。子どもの声がある限り統廃合するつもりはないが、保護者の方や学校側から要望する声があれば、検討する必要があると考えている。</p> <p>丹原文化会館は、確かにそういった多機能化という考え方もあるだろう。様々な可能性について皆さんと議論を深めていきたい。</p> <p>跡地利用は、建設当時の想いも大切にしながら有効活用し、縮充へアプローチしていきたい。</p>	

参加者の発言要旨	市の発言要旨
<p><Uターン促進について> 小学校と公民館を複合化すれば賑やかな憩いの場になるのではないかとと思う。 施設の再編も大事だと思うが、小さい頃に西条市の良さを体感して、県外へ出て帰ってきたくなる西条市にしていくための投資は続けていただきたい。</p>	<p>施設の複合化・多機能化の目的は、施設の数減らすことではない。削減は効果の一つであって、大事なものは、人口が減少する中で、地域の人々による世代を超えた交流が生まれ、繋がりができることだと考えている。 子ども達がシビックプライド（まちへの愛着や誇り）を持ち、県外に出てもいつか西条に戻ってくれるようなまちづくりをしたい。 これまで、次世代への投資には特に力を入れてきたが、今後も学校と連携して、シビックプライドが醸成できるような教育を大切にしたい。</p>
<p><学童保育の施設について> 他の地域の話ではあるが、学童保育(放課後児童クラブ)の施設が十分でないので、小学校の中に入れてもらいたいという声があった。</p>	<p>文部科学省(学校)と厚生労働省(学童)の所管の違いがあり、難しい面もあるが、市としては、空き教室の活用や建て替え等のタイミングで、できる限り学校施設に移していく方針である。</p>
<p><保育所施設について> 保育所は子ども達や保護者にとって安心できる場所であるという意識を持った上で、施設を有効に使う方法を模索していきたい。</p>	<p>保育所・幼稚園が安心できる場所であるために、施設のあり方について保護者や地域の方に十分に説明し、耐震化や園児の数など総合的に判断して決めていく。</p>
<p><施設の集約・複合化について> 環境の変化に伴い、施設の集約・複合化は仕方ないと思っている。 周桑農協も16カ所ある施設を5カ所にする統廃合を進めているが、利用者が不便を感じることがないように、サービス中身を充実させていくように考えていく。</p>	<p>市内の金融機関等でも支店の統廃合が進んでおり、民間業者の方が厳しい状況下であることは認識している。 市もJA 周桑が考えられているイメージ同様、サービスの低下を極力抑えるところに労力をかけ、統廃合というマイナスイメージを払拭していきたい。 民間と同様に行政でも自治体間競争が始まっており、選ばれるまちになるためにチャレンジしたい。</p>
<p><施設へのアクセスについて> 施設の統廃合を進めていくにあたり、自家用車を持っている人は問題ないが、持っていない人が施設を利用する場合はどうするのかということも踏まえて考えてほしい。</p>	<p>公共交通機関を利用する方にとっては、施設がバス停から近いことが重要だとのご意見、そのとおりだと思う。 公共交通も大切なものと認識しており、幹の部分となる路線バスと枝の部分となる市のデマンドタクシーがしっかり連携できれば、利便性も上がる。 公共施設再編整備にあたっては、公共交通機関のことも頭に置きながら検討を進めていきたい。</p>
<p><人口を増やす取組みについて> 厳しい財政状況や施設の統合の話をしているが、一番大切なことは、西条市が全国に向けて西条の良さを発信し、若い世代に関心を持ってもらうことだ。 そして、西条市に関心を持った県外・遠方の人達との交流からヒントを得て、知恵を絞り、地域の人口が増えるような政策を進めていただきたい。そうすれば施設の利用増にも繋がるだろう。</p>	<p>人口減少を抑制するため、大都市圏や関西圏のテレビ番組等で西条市の魅力を発信し、こちらへ人を呼べるような施策を展開している。 また、移住を含め、チャレンジする人を応援するまちづくりをしようと広く発信していく。 人口減少を前提とした上で、その幅を抑制するような取組みを進めていきたい。</p>
<p><集会所の利用について> 集会所の利用も極端に減ってきており、公民館を借りたら十分ではないかとも思う。 地域によって事情は異なるだろうが、複合化を視野に入れないと、集会所自体の維持もできなくなる。</p>	<p>集会所も老朽化が進んでおり、建て替えを希望する場合には、市の補助制度を紹介していきたい。 しかし、時間も地元負担も要する話のため、自治会ごとに議論を進めていく必要があると考える。</p>
<p><施設使用料について> B&G海洋センターの使用料について、高齢世代は無料(65歳以上の利用者は減免措置が適用)だが、若い世代からは徴収している。子どもが大事と言うが、少し考えたほうが良いのではないかとと思う。</p>	<p>使用料金について、令和2年4月に改正をしたが、今後も施設ごとの目的を勘案しつつ、より適正な料金になるよう努める。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨
<p><運動公園プールについて> 私は今治市在住だが、子どもが小さい頃には、ひと夏に10回以上、東予運動公園にあるプールに連れて行った記憶がある。 飽きないようにと、丹原の公園もよく利用した。</p>	<p>東予地区と西条地区に同じようなコンクリート製のプールが本当に必要かどうかという話をしていなくてはならない。 例えば海上プールなど異なる体験ができ、その機能を代替するといった工夫はできないだろうか？ 縮充に向けて様々な方法を検討していきたい。</p>
<p><ゴミ袋の有料化について> 今治市では、随分前からゴミ袋が有料になっている。有料の方が、ゴミを少なくしようとする意識が高まるとの声もある。</p>	<p>ゴミの減量化という観点からも、ゴミ袋の有料化を今後検討していく。</p>
<p><相談窓口について> 悩み相談所として市で対応してくれるところはあるのか教えて欲しい。</p>	<p>行政は駆け込み寺的な存在と思っているので、皆さんからご意見をいただく仕組みをはじめ、相談窓口はある。 ただ、窓口へのアプローチの仕方を周知しないとイケない。行政としても積極的に行うが、地域の皆さんにも協力していただきたい。</p>
<p><消防団の活動について> 人口減少時代において、施設の統廃合は現実的である。 消防団員も欠員が続き、大規模災害時には分団内の部ごとの対応だけでは難しい状況である。全体を集約して防災対応する必要があると考える。</p>	<p>人口減少により、施設のあり方だけでなく、消防団もどうしていくか考えないとイケない。 消防団は地域のことを熟知していることが強みである。 阪神淡路大震災の時には、消防団のOBが活躍されたと聞いている。地域のことを熟知しているこういった方にも協力していただき、防災力をカバーしていきたい。</p>
<p>まとめ</p>	<p><市長> 西条市に住んで良かった、住み続けたいと思ってくれる人が一人でも多くなるように、また人口減少や都市間競争が激しくなる中で西条市を選択してもらえるよう勝ち残れるまちを目指す。そして、新たな挑戦をしようとすることに對して、チャレンジを応援できるまちづくりを目指したい。 <地区自治会長> これから先、全員で地域を引っ張れるような形で頑張っていきたい。</p>

<当日の様子>

